

蒸し暑いなかのタクシー調査

規制緩和(改革)!! マスコミでもこの言葉は毎日といってよいほどとりあげられています。種々の規制が企業の経済活動にとって障害になっている・おかげで高いものやサービスを買わされてわれわれ国民も損をしている・だから規制緩和なのだ! そんな感じで進められ、われわれもまた応援をしているこの規制緩和政策ですが、果たして問題はないのでしょうか? たしかに、時代にそぐわなくなった規制はとっばらうべきですが、なんでもかんでも規制緩和でよいのでしょうか? そんな問題意識をもって、本格的な規制緩和が2002年に導入されたタクシー業界の現状をさぐるために労働経済論ゼミ所属の学生が街にでてタクシー運転手さん 187人からお話を聞きました。タクシー業界では規制緩和で新規参入や増車が自由になった結果、需要は減っているのに車両の台数は急増しています。運賃・料金規制も競争で値下がりました。なるほど、そこだけみれば規制緩和万歳ということになるかもしれませんが、実態やいかに。

どんどん低下する売上・収入



「お仕事中すいません。最近の売上はどうですか?」

規制緩和のおかげでタクシーに乗るひとが増え売上の増加につながったのでしょうか。そんなことはないようです。むしろ不況や車両増の影響で一台当りの売上は落ちる一方。そのため先月の手取りは平均で15.2万円という水準でした。みなさん口をそろえて、生活が厳しいことを訴えておられました。

無理な運転も



「一日に何時間くらい働かれていますか?」

問題は収入水準が低いことだけにとどまりません。というのはタクシー運転手さんの賃金は売上と強く連動しているため、売上をあげようとするれば必死で働く、ときには無茶な運転もせざるを得なくなるのです。そんな無理をする運転手が増えているという話も聞かれました。

疲れだって当然たまります



3台とも後ろのドアが開いているのは、聞き取りの最中売上をあげようと長時間無理をして働けば、当然、体にも支障が。強い疲れを感じている運転手さんが多くいました。本来、安全という視点からも運転労働者の健康には特別の留意が必要なのに事態は逆です。

規制緩和で本当に業界はよくなる?



札幌駅北口。タクシーの波をいかくぐって聞き取り

今後、高齢者人口が増えるなかでタクシーの役割は重要です。その意味ではタクシーへの期待は大です。でも実際には、街には空車のタクシーがあふれ、少ない利用者の奪い合い。さらには最賃割れという事態まで発生しています。これが規制緩和の目指していたもの? とにかく競争原理を働かせてタクシーが安く乗れるようになれば働くひとのことはどうでもよい? いや、それ以前に規制緩和でタクシー業界は本当によくなるのでしょうか?

業界の健全な発展のためにいま何が求められているのか、働くひとや経営者、そして利用者とが共同で考えるべき課題です。